手をつなごうや　宇和島の未来のために

未来つながる宇和島通信

2020年
1月
Vol.7

特集　宇和島出身のプロたちが語る、仕事と宇和島のこれから

宇和島藩ゆかりの街、東京・恵比寿に集まった宇和島出身の3人。演出家、起業家、アナウンサーとそれぞれのフィールドは違えど、プロとして国内外で道を切り開き、第一線で活躍しています。仕事にかける思いや、離れて感じる宇和島の魅力を語っていただきました。

片岡寛

起業家。宇和島東高校出身。大学4年時に休学してニューヨークに留学し、インターネットプロジェクトに参画。先端ITを体験し、帰国後学生時代から起業。SNSサービスを立ち上げる。その後、世界一周船の旅に出て上海に魅了され、活動の拠点を中国に移す。上海移住後17年間で、IT関連企業など8社を創業。多くの中国人従業員をかかえ、現地に根差したビジネスを展開、総従業員数は400人を超える。

近藤淳子

フリーアナウンサー。宇和島東高校出身。TBS系北陸放送でアナウンサーとして6年間活動したのち、ホリプロアナウンス室所属のフリーアナウンサーに。報道キャスターやラジオパーソナリティーなど幅広いフィールドで活躍する。日本酒好きが転じて、女性限定の日本酒の会「ぽん女会」主宰。日本酒イベントの司会や、日本酒のコラム連載、日本酒コンテスト審査員などとしても活動している。

松浦靖

演出家。宇和島南高校出身。1988年に渡米し、ロサンゼルスにて映像ディレクターのキャリアをスタートさせる。初のミュージックビデオ監督作品「Torchlight」がベストビデオ賞を受賞。海外生活を20年以上続け、世界各国で制作経験を積む。現在は、広告・映像の企画・演出のほかに、日本のこころと美を継承する舞台「一粒萬倍　A SEED」の主宰・演出をしている。

みんな知ってる!? 宇和島クイズ 妖怪列車編

Q 高知県 窪川と宇和島を結ぶ観光列車として
とある妖怪列車が運行しています。その妖怪とは？

1 ろくろ首

2 かっぱ

3 天狗

答えは裏面をチェック

「将来はこんな仕事をしたい」「あんな風になりたい」という思いを持つ大切さを、宇和島の子どもたちにはぜひ伝えていきたい

――高校卒業後、宇和島を離れて今の仕事に就いた経緯、仕事内容を教えてください。

近藤：小学校の頃から、アナウンサーへの強い憧れがありました。美しい発音でニュースを読む姿がカッコよくて、「私もあんな風になりたい！」と思いが一貫していたんです。関西の大学を卒業後、TBS系列の北陸放送に6年間勤めたのち、フリーランスとして活動の拠点を東京に移しています。あらゆる分野のプロフェッショナルに出会え、話を聞けることが、この仕事の面白さだなと日々実感します。

松浦：僕は、テレビコマーシャルをはじめとした広告映像の演出に携わり、約20年間、アメリカを拠点に活動してきました。4年前に日本に戻り、今は新たに舞台の演出に挑戦しています。「映像の世界に行きたい」と思ったのは宇和島南高校時代でした。文化祭のプロモーションビデオを作り上映したら、友達に大受け。「これだ！」と確信しました。東京の大学に進学後も、映画ばかり作っていました。そして20代半ばで、「映画の本場はハリウッドだ！」という短絡的な憧れから渡米(笑)。UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）夜間の映像コースに通い、そこでできた人脈から少しずつ映像の仕事をさせてもらうように。初めて作ったミュージックビデオ作品が評価され、それを機に、テレビコマーシャルの制作会社ともつながっていきました。考えなしに日本を飛び出したけれど、一つひとつの仕事の積み重ねで、キャリアって続いていくものだなと思います。

片岡：僕は、手に職を持つお二人とは少し違って「事業立ち上げ」を得意としてきました。宇和島東高校を卒業後、東京の大学に在籍中にニューヨークに留学。そこでIT企業でのインターンを経験し、「これからの成長市場はITだ」と思ったんです。帰国後にSNSサービスの会社を起業したのち、次の成長市場は中国だと上海へ。現在はフリーペーパー事業をはじめ8社を経営しています。“商い”の道に進んだのは、親が宇和島で自営業をしていた影響が強いと思います。事業を成長させるにはどうすればいいんだろう、と考えるクセが自然とついて、今の自分につながっていますね。

――宇和島を離れたからこそ感じる魅力、自分のルーツを自覚することはありますか。

近藤：私は「宇和島好き」を公言してイベントの司会などもやらせていただいているので、いろんな分野で活躍する宇和島出身者にお会いすることが多いんです。故郷の話ができるとほっとしますし、それぞれのプロの仕事ぶりに刺激をもらえます。

松浦：わかります。どこにいても「宇和島が故郷」であることは変わらないなと思う。若い頃は1日でも早く宇和島を出たかったけれど、作品づくりをしていると「自分のルーツ」を否が応でも意識するんです。「自分にしか作れないもの」には、どこか宇和島の空や海の色、匂いや音が影響している。外に憧れるだけではなくて、宇和島で育てられてきたものを大切にしよう、という思いは年々強くなっています。

片岡：海や山の幸の豊かさにも改めて驚きますよね。私が、宇和島の景色で一番思い出すのは、あの大きな商店街。全国的にもあれほど立派な商店街は珍しい。また活気あふれる通りになれば…と願わずにはいられません。

――今後、宇和島とどんな風に関わっていきたいですか。

片岡：事業立ち上げの経験を生かして、宇和島愛のある方とコラボできたら面白いなと考えています。「宇和島のここが好き！」という思いをどうビジネスにしていくか、現実的にアドバイスをすることはできる。自分の強みを生かして宇和島の盛り上げにつなげられたらいいですね。

松浦：ビジネス視点のない私もぜひ教えを乞いたいです(笑)。宇和島は列車の「終着点」にある街ですが、見方を変えれば「始発点」。宇和島から全国、世界へ発信される事業やカルチャーがあればいいなと。今は舞台づくりに挑戦していますが、いつか宇和島で上演できたら嬉しいですね。

近藤：宇和島には、真珠があり柑橘類があり闘牛まである。エッジの利いた特産品が多いですよね。もっと注目されたらいいのに！と思っています。宇和島の伝統産業を地元の方がもう一度魅力として掘り起こす「全市民、宇和島広報大使化」なんていいのでは、と密かに妄想しています(笑)。私個人でできることは、母校での講演など小さなことかもしれません。でも、仕事をしていると「これをやりたい」「自分の得意分野はこれだ」という思いがある人は強く、輝いていると感じるんです。アナウンサーに限らず「将来はこんな仕事をしたい」「あんな風になりたい」という思いを持つ大切さを、宇和島の子どもたちにはぜひ伝えていきたいと思っています。

クイズの答え

2.かっぱ

「海洋堂ホビートレイン」の3代目「かっぱうようよ号」。車内ではかっぱの世界が満喫できます。

未来つながる宇和島プロジェクト

SNSで情報発信中！

YouTube　LINE@

facebook　instagram

お問い合わせ　〒798-8601 愛媛県宇和島市曙町１番地　宇和島市 企画情報課 地方創生係　TEL 0895-49-7105　FAX 0895-20-1905